

借金をかえす

愛知県・愛知教育大学附属名古屋中学校 2年 高木 美優

私は少し前、あるイベントに参加しました。それは、財務省主催の「日本の財政を考えよう」という、日本の「おカネ」の問題について考えるグループワークでした。

そこで、私は衝撃的な事実を知りました。それは、日本が借金を抱えていること、その総額が1年間のGDPの約2.4倍にも達し、主要先進国の中で最悪の水準であること、しかもその借金が年々増えているということです。借金の原因は、社会保障などの歳出が税収よりも多いことだそうです。つまり、収入より支出が多くて赤字であっても、歳出をしなないわけにはいかないので、借金をして歳出をしているということなのです。

更に衝撃的なことには、平成30年度の歳出をみると、歳出で一番負担だと思われる医療や年金、介護といった社会保障が占める割合は全体の約3割にとどまっているのに対し、今までに国がしてきた借金とその利息の返済が全体の約2割を占めているのです。一方、歳入面についてみると、本来の歳入である税収は全体の約3分の2にとどまり、残りの3分の1を国の借金である国債で補っているのです。

つまり借金をして借金を返しているのです。

しかも、返済額よりも借入額の方が多いため、年々借金が増え続けているのです。

私がお金を借りたら、返すのは私です。でも、現在の日本がお金を借りたら、返すのは将来の日本です。つまり、今の大人が借り、借りた人とは別の将来の大人が返すのです。これはおかしいと思います。「今」の問題を「将来」に後回しにして、今の大人が将来の大人に「丸投げ」をしていると感じるのです。

また、昨今は少子高齢化が進んでいて、今よりも将来の方が働ける人が減り、働けない人が増えます。だから今のままでいけば、GDPは更に減り、一方で必

要な社会保障費が更に増えて、その結果、借金はどんどん増え続けてしまうと思います。

では、借金を後回しにしないように、少しでも借金を減らすためにはどうすれば良いのでしょうか。

それにはやはり、歳入を増やし、その歳入額に見合った歳出額に抑える努力が必要ですが、問題はどうやって歳入を増やすかです。

グループワークの時には、予算を作るためのプログラムに色々金額を入れてみるというテーマで、自分が財務大臣つまり国の立場になって、どの税金が増やせるかという視点で考えました。でも今回、将来に丸投げしないように借金を減らすという角度から考えてみたら、国民の立場からどう歳入を増やすことができるのかという視点も必要だと思いました。つまり、国民が日本の借金を他人事と考えず、自分達の問題と捉え、主体的に解決する努力をする必要があると思ったのです。

以前、学校の社会の授業で産業について勉強した時、「産業の活性化」と言うことは簡単だけど、実際に行うのはとても困難で課題も多いことに気付かされました。ただ、産業の活性化のための様々な取り組みについても知りました。例えば、中国・四国地方のとある過疎地では高齢者でも扱いやすい植物の葉を「つまもの」（料理に添える葉）とするビジネスをしているそうです。また、戦時中に軍の飛行場が多くあったことをいかし、国産のジェット機をつくるプロジェクトを立ち上げたところもあるそうです。

このような素晴らしい取り組みがもっと増えていけば、歳入も増えます。そして、このような取り組みを自分の生活の^{ため}の為だけでなく、国民の一人として日本の借金を減らす為にも頑張ることができると思います。

歳出面でも同じことが言えると思います。

私達の一人一人が今以上に健康に気を使い、医療費を減らすことで、自分のお金が減らないだけでなく、歳出も減らすことができます。また、最近耳にする「こども食堂」といった民間での取り組みが増えることでも歳出は減らせると思います。更に、いつもとは違うルートに進んだ今年の台風や、猛暑といっても表しきれない夏の暑さはまさに異常気象です。異常気象による大雨で西日本には大きな被害がでました。こうした被害や異常気象の対応にはお金がかか

ります。でも、私達が環境問題に取り組む努力をもっとすれば歳出を抑えることにつながるかもしれません。

私は今まで、国のお金については国の問題だと思っていました。でも、国の借金のことを知り、これは国だけの問題ではなく、国民みんなの問題だと思いました。

だから、私達はこの問題を自分達のことだと意識して取り組んでいくべきだと思います。そして、国民みんなが同じ意識を持つことができれば、もっと良い「おカネの使い方」ができる社会になっていくのだと思います。

〈参考文献〉

- ・財務省「財政学習教材『日本の財政を考えよう』 平成30年4月

